

韓國日本語學會ニュースレター

[2022-2]



発行人: 盧姪鉉 / 編集人: 張良光 / 発行所: 韓國日本語學會 / 発行日: 2022.8.26.

ご挨拶	1
役員名簿	2
常任理事会	7
会員情報	9
学術大会開催案内	11
連携協力研究会活動報告	19
編集委員会	24
『日本語学研究』論文投稿案内	26
「365 One Stop 論文投稿システム」	32
学会ホームページ案内	33

事務局 〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社会館 424 号
盧姪鉉教授研究室

🌐 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長: 李炤羅) 010-8901-2603
(学術事業企劃事務局長: 扈圭珍) 010-3464-1660
(教育広報事務局長: 伊藤貴雄) 010-2656-2098

ご挨拶



韓国日本語学会の会員の皆様、

蒸し暑かった夏が去り、いつの間にか新しい学期を迎えるのに忙しい日々をお過ごしのことと思います。未だに COVID-19 の再流行に対する不安で緊張を緩めることはできない状況が続いてはありますが、まもなく長いトンネルの出口が見えてくると思われます。

私たち韓国日本語学会も、私たちを巡る困難な状況の中で新しい突破口を見つけるために、鋭意努力しております。

3月の第45回、そして来る9月の第46回国際学術大会はそれぞれ「データ基盤の日本語学研究」、「継承日本語教育」という国境を越えた多学際間の研究が土台になった主題で開かれ、コロナ禍の中でもオンラインを通じ、国境を越えて、より多くの海外研究者が参加できるようになりました。特に、第45回国際学術大会は「データ基盤の日本語学研究-Culture Mining、AI、日本語教育-」という企画テーマで、第4次産業革命時代を迎え、私たちの周辺で起きている、急変する環境変化に能動的に対処できる方案と関連して、研究発表と活発な討論の場になりました。「融合」が話題となっている時代の潮流の中で、韓国日本語学会のこのような努力は、今後の日本語学が主導となったグローバル融合・複合研究に端緒を提示しているという点で大きな意義があると言えるでしょう。

9月17日に開催されます第46回国際学術大会では「継承日本語研究の現況と展望」を主題に基調講演および招請講演、企画発表をご用意しており、最新の研究成果を紹介する多様な発表が行われる予定です。多くの会員の皆様のご関心とご参加を賜りますようお願いいたします。

日本語分野の専門学会として新たな変化を遂げつつある韓国日本語学会が、専門性と国際性を同時に生かし、国境を越えた多様な学問分野との出会いと協力を通じて「メディチ効果」(Medici effect)を極大化させることができる「グローバル融合」学会になれるよう、今後も変わらず、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

韓国日本語学会 事業企劃副会長 李竣瑞

役員名簿

■ 常任理事

役職		氏名	所属
會長		盧姓鉉	徳成女子大學校
副會長	研究	蔡盛植	高麗大學校
	編集	李恩美	明知大學校
	學術	郭銀心	中央大學校
	事業企劃	李竣瑞	聖潔大學校
	教育弘報	角ゆりか	明知大學校
總務理事	研究編集	鄭賢兇	西京大學校
	學術事業企劃	辛銀真	仁川大學校
	教育弘報	中村有里	仁川大學校
財務理事		殷守希	淑明女子大學校
評価理事		梁乃允	中央大學校
學術理事		金義泳	ハンバツ大學校
		張允娥	延世大學校
		趙恩英	釜山外國語大學校
		白以然	高麗大學校
編集理事		國生和美	東國大學校
		申媛善	建國大學校
		崔惠貞	カトリック大學校
		全紫蓮	慶尚國立大學校
		金惠娟	聖潔大學校
出版理事		李粹曷	嘉泉大學校
情報理事		李相怡	明知專門大学
弘報理事		張良光	カトリック大學校
国際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学
		朴秀娟	神戸大学
		尹智鉉	中央大学
		鄭惠先	北海道大学
	中国	朴孝庚	漢陽サイバー大學校
		全永男	延辺大學校
		母育新	西安外国語大學校
		盛文忠	上海外国語大學校
	台湾	羅曉勤	台湾銘傳大學校

	オーストラリア	Lee,Duck-Young	The Australian National Univ.
対外協力理事	ソウル	文彰鶴	韓國外國語大學校
	京畿	方允炯	水原大學校
	江原	高慧禎	カトリック關東大學校
	忠北	李忠奎	西原大學校
	忠南	金玄珠	ハンバツ大學校
	慶北	李慈鎬	慶北大學校
	慶南	河在必	釜山大學校
	全南	林禔映	全南大學校
	濟州	孫榮奭	濟州大學校
	日本	金照雄	時事日本語社
事業企劃理事		李舜炯	慶北大學校
		李承珉	啓明大學校
事務局長	研究編集	李炤羅	建國大學校
	學術事業企劃	扈圭珍	徳成女子大學校
	教育弘報	伊藤貴雄	弘益大學校

■一般理事（国内：가나다順，海外：五十音順）

国内		
検校裕朗(極東大)	具明會(韓國外大)	権城(木浦大)
金善姬(水原大)	金英敏(同徳女大)	金嚙泳(同徳女大)
金鍾完(江原大)	長島倫子(建國大)	野田高広(啓明大)
沼田浩通(仁川大)	高橋美保(韓國外大)	持田祐美子(平澤大)
朴江訓(全州大)	朴京愛(建國大)	朴良順(蔚山科技大)
齊藤明美(翰林大)	成知炫(韓國放送通信大)	孫範基(サイバー韓國外大)
宋殷美(白石藝大)	申義植(韓國外大)	相澤由佳(聖潔大)
安志英(釜慶大)	梁敏鎬(啓明大)	尹楨勛(釜山外大)
李京哲(東國大)	李羽濟(白石藝大)	李賢珍(祥明大)
鄭相美(新羅大)	趙宣映(仁川大)	崔延朱(慶尚國立大)

海外		
新井保裕(文京学院大)	石塚ゆかり(青森大)	市島佑起子(鹿児島大)
今村圭介(東京海洋大)	任炫樹(帝塚山学院大)	大塚薫(高知大)
生越直樹(東京大)	吳泰均(北海道大)	吳惠卿(国際基督教大)
河崎啓剛(東京大)	金愛蘭(日本大)	金庚芬(明星大)
金菊熙(松山大)	金智賢(宮崎大)	金蘭美(横浜国立大)
齊藤良子(国士舘大)	朱炫姝(目白大)	高木丈也(慶應義塾大)
辻野裕紀(九州大)	寺尾智史(一橋大)	永原歩(東京女子大)
名嶋義直(琉球大)	早矢仕智子(宮城学院女子大)	松永稔也(宮崎大)
幸松英恵(東京外大)	尹盛熙(関西学院大)	吉田さち(跡見学園女子大)
李譔珍(東京都立大)		

■編集委員会

職責	氏名	所属
編集委員長	姜錫祐	カトリック大學校
編集理事	國生和美	東國大學校
	金惠娟	聖潔大學校
	申媛善	建國大學校
	全紫蓮	慶尚國立大學校
	崔惠貞	カトリック大學校

音声学 音韻論	閔光準(建國大) 宇都木昭(名古屋大学/日本) 李連珠(北海道大学/日本) 李承英(光云大) 孫範基(サイバー韓國外國語大) *高慧禎(カトリック關東大)	語用論 社会言語学	琴鍾愛(忠南大) 金庚芬(明星大学/日本) 鄭惠先(北海道大学/日本) 吉田さち(跡見学園女子大学/日本) 李恩美(明知大) *梁敏鎬(釜慶大)
統辞論 形態論	裴銀貞(釜山外國語大) 金廷珉(亜細亜大学/日本) 竹沢幸一(筑波大学/日本) 李徳泳(The Australian National Univ./濠洲) *朴江訓(全州大)	日本語教育	石井恵理子(東京女子大学/日本) 落合由治(淡江大学/臺灣) 曹英南(高麗大) 辛銀眞(仁川大) 李奎台(東京外大/日本) 角ゆりか(明知大) *金義泳(ハンバツ大)
意味論 語彙論	姜炅完(大邱カトリック大) 金愛蘭(日本大学/日本) 金愛蘭(慶北大) 塩田雄大(NHK 放送文化研究所/日本) 孫栄爽(濟州大) 宋永彬(梨花女子大)	日本語史	吳美寧(崇實大) 羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) 朴善玉(大眞大) *朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	檢校裕朗(極東大) 中村有里(仁川大) 李朱利愛(梨花女子大) 盛文忠(上海外国語大学/中國) 李忠奎(西原大) 李東哲(山東省外事職業大学/中國) 全永男(延辺大学/中國) *李舜炯(慶北大)	◆「*」は、実務担当編集委員（実務委員） そのほかは審査担当編集委員（査読委員）である	

■監事

成玟珂(祥明大學校)

李善姬(ソウル女子大學校)

■研究倫理委員会

委員長	非公開
委員	非公開

■学術研究発展委員会

委員長	吳玆定(建國大)
委員	辛銀真(仁川大)、朴京愛(建國大)、崔惠貞(カトリック大)、 金義泳(ハンバツ大)

■学術誌発展委員会

委員長	李恩美(明知大)
委員	高慧禎(カトリック関東大)、姜錫祐(カトリック大)、文彰鶴(韓国外大)、 鄭相美(新羅大)、梁敏鎬(釜慶大)

■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大)
委員	金志宣(梨花女子大)、中村有里(仁川大)、持田祐美子(平澤大)、 迫田垂希子(明知大)、川口慶子(崇實大)、小島堅嗣(培材大)

■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓(啓明大)
委員	姜錫祐(カトリック大)、朴海煥(淑明女子大)、李恩美(明知大)、 曹英南(高麗大)

■学会発展基金委員会

委員長	李竣瑞(聖潔大)
委員	高慧禎(カトリック関東大)、金惠娟(聖潔大)、南得鉉(明知専門大)、 檢校裕朗(極東大)

■諮問委員会

監事	黄永熙(漢陽サイバー大)
委員	姜錫祐(カトリック大)、康仁善(聖公會大)、金玉任(誠信女子大)、 盧明姬(東國大)、閔光準(建國大)、朴海煥(淑明女子大)、 李暻洙(韓国放送通信大)、李範錫(カトリック大)、李漢燮(高麗大)、 尹幸舜(ハンバツ大)、鄭相哲(韓国外国語大)、洪珉杓(啓明大)

常任理事会

■ 第四次 常任理事会

(2022 年 8 月 3 日(水) 14:00、ZOOM オンライン会議)

1. 学術・事業企画 関連報告

- 第 46 回国際学術大会発表申請者 現況

2. 編集 関連報告

- <日本語学研究>第 72 輯(2022 年 06 月 20 日) 発行報告

3. 情報 関連報告

- ホームページ及びフェイスブック運営

4. 弘報/後援活動

- ニュースレター(2022 年 8 月 26 日 発信予定)

5. 国際

- (日本) 東アジア日本学研究会 国際学術大会参加関連報告(2022 年 9 月 11 日, ZOOM)
- 台湾日本語文学会国際学術大会 参加関連報告

6. 総務/事務局

- 会員住所録整備(4 月)
- 学術誌表紙集め、学術誌既刊号の情報検討及び修正、学会保管用学術誌の確認及び再整備(5 月)

7. その他

- (日本)国立国語研究所と学術交流協力に関する協定締結の延長
- 2022 年 5 月 13 日 韓国日本語学会 & 日韓コミュニケーション研究会、OPI 研究会 懇談会
- (日本)東アジア日本学研究会と MOU 締結 (2022.08.01.)
- NINJAL チュートリアル(2022 年 8 月 6 日(土))関連



■ 第5次 常任理事会

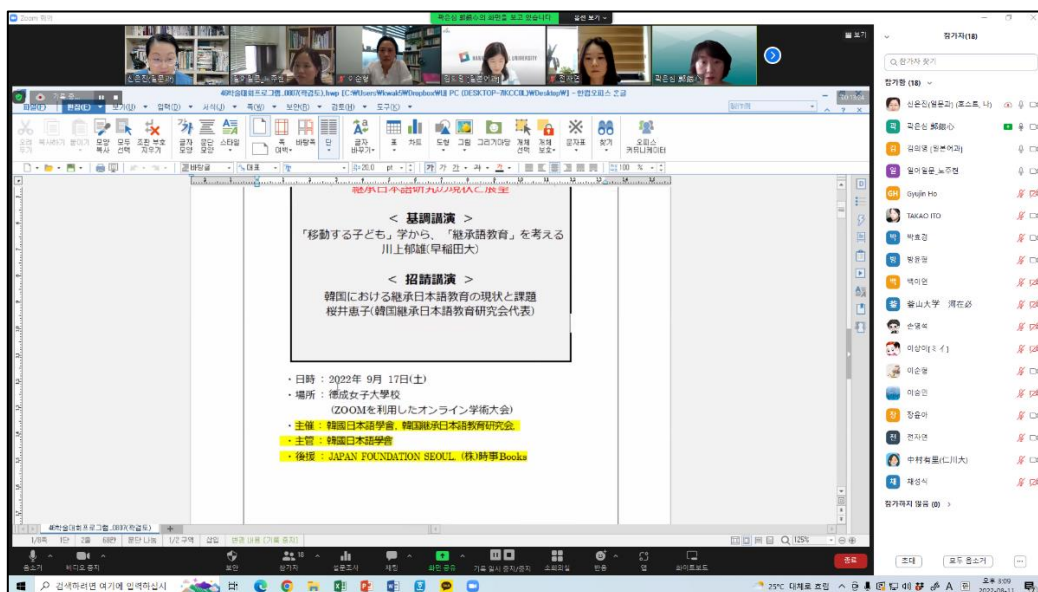
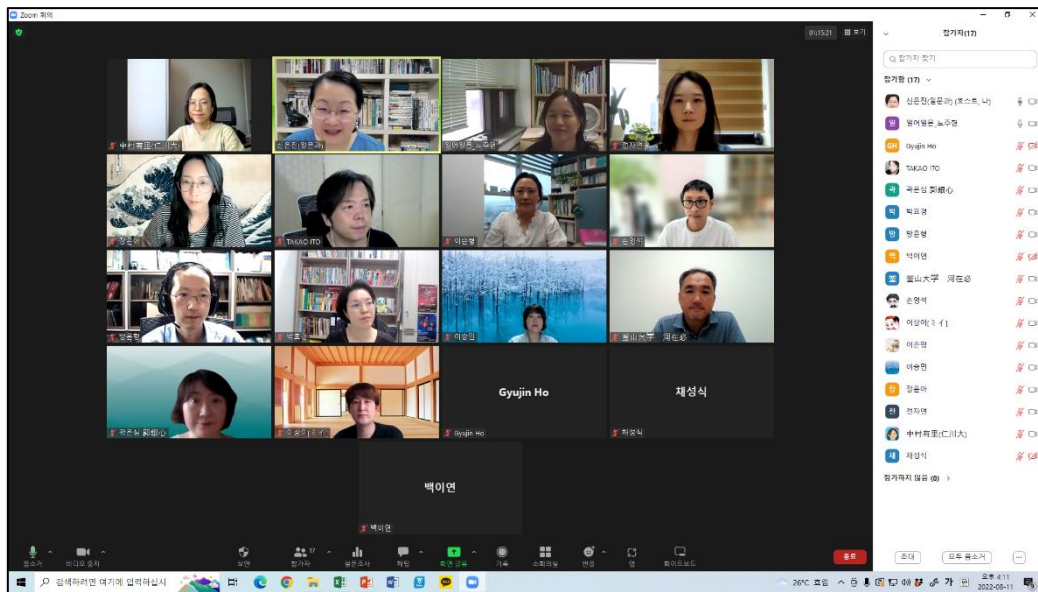
(2022年8月11日(水) 15:00、オンライン ZOOM 会議)

1. 第46回 国際学術大会準備

- 学術大会プログラム(案)報告
- 討論者及び司会者交渉
- 各会議場の担当者(ZOOM 管理者)

2. 기타

- (日本)国立国語研究所 NINJAL チュートリアル 報告 (2022年8月6日(土))



会員情報

○ 出版

1. 著書名：『日韓中対照 依頼談話の発想と表現』

著者：沖裕子・姜錫祐・趙華敏

出版社：和泉書院

出版日：2022年 4月



2. 著書名：『근대 제주 일본인 거류민 연구』

著者：김은희

出版社：경인문화사

出版日：2022年 5月



○ 任用及び、転任

1. 申雄哲 会員

(前)慶星大學校 韓国漢字研究所 HK研究教授

⇒ 檀國大學校 漢文教育研究所 研究教授

2. 大田祥江 会員

(前) 国際交流基金バンコク日本文化センター

⇒ 国際交流基金ソウル日本文化センター (2022.07～)

3. 姜盛文 会員

高麗大學校 4段階 BK2I 中日語文学教育研究団 研究教授 (2022.07～)

4. 郭銀心 会員

中央大學校 アジア文化学部 日語日文学専攻 助教授 (2022.09～)

会員情報

○ 学位取得

・張良光 会員

学位取得：高麗大學校 文學博士學位 取得(2022.8)

題 目：日本語母語話者間の話題展開に関する研究

-初対面男女間の自由会話の資料を中心に-

現 職：カトリック大學校 日語日本文化学科 教育専担招聘教授

○ 事務局

〒01369

Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社会館 424 号

盧姪鉉教授研究室



<http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長：李炤羅) ☎ 010-8901-2603

(学術事業企劃事務局長：扈圭珍) ☎ 010-3464-1660

(教育広報事務局長：伊藤貴雄) ☎ 010-2656-2098



jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수희(한국일본어학회) 殷守希 (韓国日本語学会)

- ・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に掲載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの[学会誌](#)よりダウンロードできますのでご利用ください。

韓國日本語學會

第46回 國際學術發表大會

< 主 題 >

繼承日本語研究の現状と展望

< 基調講演 >

「移動する子ども」学から、「繼承語教育」を考える
川上郁雄(早稲田大)

< 招請講演 >

韓国における繼承日本語教育の現状と課題
桜井恵子(韓国繼承日本語教育研究会代表)

- ・ 日時：2022年 9月 17日(土)
- ・ 場所：徳成女子大學校
(ZOOMを利用したオンライン学術大会)
- ・ 主催：韓國日本語學會, 韓国繼承日本語教育研究会,
徳成女子大學校人文科學研究所
- ・ 主管：韓國日本語學會
- ・ 後援：JAPAN FOUNDATION SEOUL, (株)時事Books



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第46回 國際學術發表大會

- 日時：2022年 9月 17日(土)
 ■ 場所：徳成女子大學校
 (ZOOMを利用したオンライン学術大会)

<Program>

10:00-12:00	▪ 一般發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場 ・第5發表會場
12:00-13:00	休息	
13:00-13:30	▪ 開會式・總會 <司會: 中村有里(仁川大)> 開會辭: 盧姪鉉 會長(徳成女大) 祝 辭: 加藤 剛 所長 (日本国際交流基金Seoul文化Center)	
13:30-13:40	▪ 研究倫理講演 <司會: 中村有里(仁川大)> 蔡盛植(高麗大)	
13:40-13:50	休息	
13:50-14:40	▪ 基調講演 <司會: 辛銀眞(仁川大)> <討論: 岩井朝乃(弘益大)> 川上郁雄(早稲田大)	
14:40-14:50	休息	
14:50-15:40	▪ 招請講演 <司會: 角ゆりか(明知大)> <討論: 服部美貴(台湾大)> 桜井恵子(韓国継承日本語教育研究会代表)	
15:40-16:00	休息	
16:00-18:00	▪ 企劃發表及び 一般發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場 ・第5發表會場
18:00	閉會	

各發表場のURLは
9月13日(火)に
學會ホームページ
に掲示

<http://www.jlak.or.kr>

<研究倫理講演>

13:30-13:40

司會: 中村有里(仁川大)

연구자를 위한 연구윤리교육
研究者のための研究倫理教育
蔡盛植(高麗大)

<基調講演>

13:50-14:40

司會: 辛銀眞(仁川大) 討論: 岩井朝乃(弘益大)

「移動する子ども」学から、「継承語教育」を考える
川上郁雄(早稲田大)

<招請講演>

14:50-15:40

司會: 角ゆりか(明知大) 討論: 服部美貴(台湾大)

韓国における継承日本語教育の現状と課題
桜井恵子(韓国継承日本語教育研究会代表)

第1発表会場

■ 日本語の文法

座長：朴才煥(京畿大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	李讓珍 (東京都立大)	尊敬表現「なさる」と「される」の使用について	日	方允炯(水原大) 河在必(釜山大)	宋殷美 (白石藝術大)
10:40 -11:20	千吳載 (啓明大)	일본어 유생주어중간구문과 기억의 발달 -구문연구와 발달심리학의 접점- (日本語有生主語の中間構文と記憶の発達 -構文研究と発達心理学の接点-)	韓	朴江訓(仁荷大) 權槿玲(高麗大)	蔡盛植 (高麗大)
11:20 -12:00	趙凱丹 (九州大)	文末形式「くない」と「ではないか」の比較 -Twitterデータに基づく分析-	日	全紫蓮 (慶尙國立大) 申義植 (韓國外大)	林禔映 (全南大)
13:00 -13:30	開会式・総会				
13:30 -13:40	研究倫理講演				
13:50 -14:40	基調講演				
14:50 -15:40	招請講演				

■ 企画発表：世界の継承語教育-実践と課題

座長：検校裕朗(極東大)

16:00- 16:25	尹チヨジャ (韓國外大)	日本における継承韓国・朝鮮語教育の支援課題	日	飯田綾織 (全南大)	川口慶子 (崇實大)
16:20- 16:50	及川ひろ絵 (弘益大)	韓国における継承日本語教育の支援課題 -自助グループ活動不参加の理由及び 自助グループ活動の問題点をもとに-	日	迫田亜希子 (明知大)	
16:50- 17:15	三輪 聖 (Universität Tübingen)	ドイツにおける継承日本語教育の現状と展望 -ヨーロッパの言語教育政策とドイツの 出自言語教育から見えてくること-	日	峯崎知子 (弘益大)	
17:15- 17:40	深澤伸子 (JMHERAT) 西島阿弥子 (国際交流基 金バンコク) 池上摩希子 (早稲田大)	継承日本教育」を問い直す -バンコクの親子日本語教室の実践事例から-	日	今井りえこ (威徳大)	
17:40- 18:00	総合討論：関陽子(漢陽大), 安恒加寿枝(時事日本語社)				

第2発表会場

■ 日本語の語彙

座長：朴海煥(淑明女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	今村圭介 (東京海洋大)	多言語データベースを利用した 日本語における英語借用の研究	日	朴良順 (蔚山科學大) 斎藤敬太 (津田塾大)	甲賀真広 (国立国語 研究所)
10:40 -11:20	李舜炯 李承珉 孫美貞 李賢貞 (慶北大) 朴孝娜 (崇實大)	부정적 의미를 지닌 영어차용 복합어의 한일대조 (否定的な意味を持つ英語借用複合語の 日韓対照)	韓	姜炅完 (大邱Catholic 大) 孫榮爽 (濟州大)	申雄哲 (檀國大)
11:20 -12:00	張元哉 (啓明大)	근대 한일 양국어의 어휘 대응과 단어 정렬 병렬코퍼스 구축 (近代日韓両国語における語彙の対応と 単語単位のパラレルコーパスの構築)	韓	李竣瑞 (聖潔大) 尹榮珉 (延世大)	朴孝庚 (漢陽Cyber 大)
13:00 -13:30	開会式・総会				
13:30 -13:40	研究倫理講演				
13:50 -14:40	基調講演				
14:50 -15:40	招請講演				

■ 日本語の語彙と表現

座長：李美淑(明知大)

16:00 -16:40	大谷鉄平 (北陸大)	国会議事録にみられる「事実上」の使用実態 －BCCWJ掲載分を対象とした小調査より－	日	高恩淑 (Seoul科技大) 具明會 (韓國外大)	李羽済 (白石藝術 大)
16:40 -17:20	金美貞 (慶北大)	国会議事録に見られる二重敬語の使用と変化	韓	柳信愛 (釜山外大) 廉美蘭 (全南大)	黃雲 (大田大)
17:20 -18:00	李 娟 (立命館大)	村上春樹の1980年代の短篇小説における 比喩表現の特徴について	日	徐乃馨 (東京都立大) 尹京愛 (嶺南大)	李明寧 (慶南大)

第3発表会場

■ 対照言語学1

座長：李暲洙(韓国放送大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	高恩淑 (獨協大)	受身形式を用いる韓国語の可能表現の様相	日	崔瑞英 (韓國外大) 金廷民 (亜細亜大)	趙宣映 (仁川大)
10:40 -11:20	趙惠真 (札幌国際大)	일한 관광 언어 대조연구 －관광 교재의 문법을 중심으로－ (日韓観光言語における対照研究 －観光教材の文法を中心として－)	韓	脇山尚子 (東元大) 長島倫子 (建國大)	崔惠貞 (Catholic 大)
11:20 -12:00	成知炫 (韓国放送大)	「見える」と「보이다」について －コーパスに現れている使用実体を中心に－	日	権城 (木浦大) 玄仙令 (京畿大)	南得鉉 (明知専門 大)
13:00 -13:30	開会式・総会				
13:30 -13:40	研究倫理講演				
13:50 -14:40	基調講演				
14:50 -15:40	招請講演				

■ 対照言語学2

座長：李京哲(東國大)

16:00 -16:40	招請発表				
	潘鈞 (北京大学外国語学院)	中国の中日対照研究の歩み	日	飯干和也 (祥明大) 李東哲 (山東外事職業 大)	施暉 (蘇州大)
16:40 -17:20	招請発表				
	張静苑 (河南大)	中日両言語の関係節マーカー及び それにかかわる問題	日	宋天鴻 (関西外国語大) 崔延朱 (慶尙國立大)	伊藤沙智子 (韓國外大)
17:20 -18:00	劉永亮 (東京都立大)	日本語の格助詞「デ格」とモンゴル語の 造格[bar]/[jər]の比較	日	文都日娜 (名古屋大) 尹祥漢 (釜山慶尙大)	高草木美奈 (大真大)

第4発表会場

■ 日本語の音声・音韻

座長：李範錫(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:40 -11:20	伊藤茉莉奈 沈希津 (早稲田大)	音声をテーマとする日本語教師教育における課題 -現状の日本語教師研修の分析から-	日	陳宗福 (仁川大) 金善姬 (水原大)	李敬淑 (亞洲大)
11:20 -12:00	孟垚 李京哲 (東國大)	『磨光韻鏡』山攝韻 字音 규정의 문제점 -1・2等韻을 중심으로- (『磨光韻鏡』における山攝韻字音規定の問題点 -1・2等韻を中心に-)	韓	宋在漢 (松嶺高等學校) 李相怡 (仁川大)	國生和美 (東國大)
13:00 -13:30	開会式・総会				
13:30 -13:40	研究倫理講演				
13:50 -14:40	基調講演				
14:50 -15:40	招請講演				

■ 談話と社会言語学

座長：姜錫祐(Catholic大)

16:00 -16:40	鄭賢兒 (明知大)	화용론적 관점에서 본 불만표명행위의 한중일 대조 -상하 힘의 관계의 변화에 따른 특징을 중심으로- (語用論の観点から見た不満表明行為の 韓中日対照研究 -力の関係の変化による特徴を中心に-)	韓	林序衍 (Seoul市立大) 金鍾完 (江原大)	申媛善 (Catholic 大)
16:40 -17:20	張允娥 (延世大)	한일어 일상대화에 있어서의 질문표현의 유형과 기능 (日韓の日常会話における質問表現の 類型と機能)	韓	李奎台 (東京外国語大) 尹楨勛 (釜山外大)	金義泳 (Hanbat大)
17:20 -18:00	吳泰均 (札幌国際大)	LINEの会話における「既読」の語用論的意味	日	金修卿 (韓國外大) 持田祐美子 (平澤大)	宋淑正 (中央大)

第5發表會場

■ 日本語教育 1

座長：趙南星(Hanbat大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
招請發表					
10:00 -10:40	服部美貴 (台灣大)	台灣在住台日國際結婚家庭の 日本人父親による日本語継承とFLP	日	岩井朝乃 (弘益大) 本多美保 (梨花女大)	小松奈々 (高麗大)
10:40 -11:20	千仙永 (東京大)	상호 문화적 관점에서 바라본 외래어 학습의 의미 -일본어과와 도덕과의 연계수업 실천 사례연구- (相互文化的観点から見た外来語学習の意味 -日本語科と道德科の連携授業の事例研究-)	韓	崔眞姬 (白石大) 崔廷珉 (建國大)	金孝卿 (麗澤大)
11:20 -12:00	辛銀眞 (仁川大)	시각장애 대학생 학습평가에 대한 일고 -일본어 전공과목을 대상으로- (視覚障害大学生の学習評価に対する一考 -日本語専攻科目を対象に-)	韓	蔡侖周 (Hanbat大) 李琬兒 (釜山大)	殷守希 (淑明女大)
13:00 -13:30	開會式・總會				
13:30 -13:40	研究倫理講演				
13:50 -14:40	基調講演				
14:50 -15:40	招請講演				

■ 日本語教育 2

座長：蔡京希(培花女大)

招請發表					
16:00 -16:40	羅曉勤 (台中科技大)	持續可能な世界に向かうための日本語教育	日	中村有里 (仁川大) 持田祐美子 (平澤大)	張良光 (Catholic 大)
16:40 -17:20	磯野英治 (名古屋商科大)	多文化社会への支援に資する言語景観を 活用した初級日本語教育用ビデオ教材開発の 理論的枠組みと内容について	日	朱晝淑 (高麗大) 古賀万紀子 (神田外語大)	金玄珠 (Hanbat大)

連携協力研究会活動報告

韓国継承日本語教育研究会

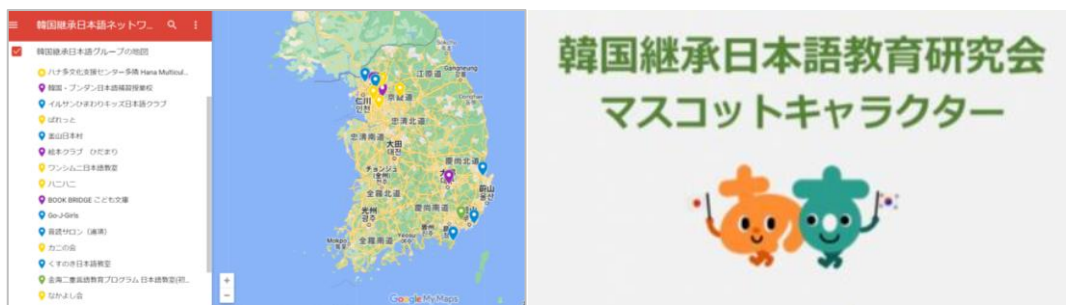
2022 年前期の主な活動について以下にご報告いたします。

◆第 33 回・34 回 定例会を開催

- 2 月 26 日（土）「韓国継承日本語教室大集合」
- 4 月 30 日（土）「読み聞かせ ワークショップ」

◆韓国継承日本語ネットワーク地図の公開

国際交流基金ソウル文化センターの支援を受け、韓国で継承日本語を学ぶための教室やグループをホームページに公開。



◆MHB 海外継承日本語部会「カリキュラム・プロジェクト」に参加

MHB 学会の SIG「海外継承日本語部会」において、世界の継承日本語教育機関や団体におけるカリキュラムを紹介する「カリキュラム・プロジェクト」に、韓国代表として参加（前田亜津子：イルサンひまわりキッズ日本語クラブ）

◆「歴史を見つめる一日韓の大切な人たちとともに」出版

当研究会とも深い縁がある「九里歴史倶楽部」の宮内さんが、書籍を出版なさいました。日韓の歴史についてご興味のある方はぜひ一読ください。

◆9 月 17 日（土）開催の韓国日本語学会にて招請講演と企画発表

当研究会の櫻井恵子会長が「韓国における継承日本語教育の現状と課題」で招請講演の予定。また、日本・韓国・ドイツ・タイの 4 か国の発表者で構成される企画発表を実施。

★韓国継承日本語教育研究会の活動にご興味を持たれた方、是非ともご連絡下さいませ。

ホームページ <http://krkeishougo.net>

Facebook グループ「韓国継承日本語教育研究会」

文化フレームビッグデータ研究所

韓国研究財団の一般共同研究資源事業で融複合研究を進めている聖潔大学校の文化フレームビッグデータ研究所がホームページをリニューアルオープンしました。

多国籍インフォーマントグループを活用してAIディープラーニング理論を融合した「カルチャーマイニング」という独自のビッグデータ分析技法を研究している文化フレームビッグデータ研究所は、今回改善されたホームページを通じて、既存のインフォーマントグループの管理と疎通はもちろん、研究成果の共有、多様な教育資料の配布など融合研究活性化に寄与するものと思われます。

李峻瑞研究所長は「まだプロトタイプに過ぎないが、ホームページ主軸においてメタバーズ感覚を加えた」として「今後これを通じてインフォーマントグループの拡張、時空間を越える有用な言語的/非言語的コミュニケーションデータの確保およびカルチャーマイニングデータベース構築のために持続的に改善していく」ことを発表しました。

ノ・ヨンヒ融合研究総括センター長は「今回のメタバーズ感覚のホームページ構築を通じて最近大きく注目されているAIディープラーニング理論を融合した融合複合カルチャーマイニング研究が大きく拡張されるだろう」と述べています。

日韓コミュニケーション研究会

私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013年5月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、翌年の10月には学術研究活動に重きを置くべく「在韓待遇コミュニケーション研究会」に、そして同年11月には、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと「日韓コミュニケーション研究会」へと名称変更をし、今日に至ります。

2022年8月現在、会員は5名在籍しており、韓国在住会員4名、日本在住会員1名となっています。個人での研究活動だけでなく、共同研究にも取り組んでおり、次の学会での発表を目指し、準備をしています。先日開かれた全大会では、貴学会の盧姪鉉会長がご参加くださり、非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。研究は、各グループで進めるだけでなく、定期的実施される全体会で、今後の研究の構想を相談したり、進捗状況の報告や情報交換、また会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。

日本在住の会員や、韓国在住の会員も各地にいるためオフラインだけでなく、オンライン上での会議も頻繁に行ってきました。そのため、一か所だけの研究ではなく幅広いフィールドで研究活動ができ、データ集めや資料集めの際には皆積極的に協力してくれます。

こうした活動によって、韓国内外の学会において会員による口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等様々な形で成果をあげています。（詳しくはホームページの「研究成果」をご覧ください）

http://nikkancommu.officialblog.jp/archives/cat_399192.html

今後も韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思います。

韓国OPI研究会

韓国 OPI 研究会 2022 年度・上半期 活動報告

韓国 OPI 研究会では、OPI(Oral Proficiency Interview：全米外国語教育協会(ACTFL)が開発した口頭能力を測るためのインタビュー方式のテスト)に関する知識やインタビュー方法などを知り、教育や研究に活かすことを目的とした活動を続けています。主な活動は 1)年 4 回の定例会、2)週 1 回のスタディ(金曜と土曜隔週で)、3)学会発表、そして 4)OPI テスター養成ワークショップです(本年度は 3 年ぶりにオンラインでワークショップを実施しました)。今回は、2022 年度・上半期の主な活動について報告いたします。

◆定例会

本年度の第 1 回定例会(3 月 12 日)では、研究プロジェクト(OPI に関連する研究費を支援するプロジェクト)が 3 件採用されたことを報告したのち、OPI の音声データ(韓国人学習者)を聞いてレベル判定とその根拠の話し合いを小グループ別に行ったあと、全員で情報共有しました。

第 2 回定例会(6 月 11 日)では、研究プロジェクトに採用された 3 件の研究について韓国日本語教育学会にて発表した内容の報告がありました。そして OPI の音声データ(ドイツ人学習者)を聞いて小グループでのレベル判定、全員での共有を行い、最後にトレーナー(資格付与者)の先生から事前にいただいていたレベル判定結果とコメントを共有しました。

◆スタディ

2020 年から始まった、OPI に関するスタディは 3 年目を迎えました。OPI に関する書籍や論文を皆で読みながら意見交換をすることや、最近は実際のインタビューの仕方を練習することも取り入れています。今年はワークショップを控えていたため、特にインタビュー練習に力を入れてきました。

◆OPI 認定テスター資格取得のためのワークショップ【第 15 回】が終了

4 日間(7 月 23 日～7 月 26 日)の日程で開催された、OPI 認定テスター資格取得のためのオンラインワークショップは無事に終了しました(前回の第 14 回までは対面で行っていたため、オンライン(ZOOM)による開催は初となります)。OPI のインタビュー方法、レベル判定についての講義と実践(参加者が実際に被験者にインタビュー)が 4 日間に渡って行われました。大変に盛りだくさんな内容でしたが、10 名の受講者は熱心に取り組んでいました。今後は、資格取得に向けて自らインタビューデータを収集する段階に移ります。

本研究会へのお問い合わせは本研究会のメールアドレスまでお願いいたします。初回の定例会や勉強会へのご参加は無料なので、お気軽にお問合せください。

定例会やスタディ等の情報はホームページと Facebook でも発信しておりますので、以下の情報をご参照いただければ幸いです。

韓国 OPI 研究会メールアドレス：kankokuopi@gmail.com

韓国 OPI 研究会ホームページ：<http://opik.da-te.jp/>

[韓国 opi 研究会 | Facebook](#)

AIとクリエイティブ・ラーニング研究会
(AI-CL : Association for AI and Creative Learning)

<第1回 研究会 創立企画セッション>

2021年9月11日(土) 韓国日本語学会 第43・44回 国際学術発表大会 企画発表Ⅳ

場所：漢陽 Cyber大学校 (ZOOM を利用したオンライン学術大会)

座長：検校裕朗(極東大)、司会：諏訪昭宏(釜山外大)

1. 落合由治(淡江大)「AI と日本語教育について」

討論：李朱利愛(梨花女大)

2. 井庭崇(慶應義塾大)「クリエイティブ・ラーニング創造社会の学びと教育」

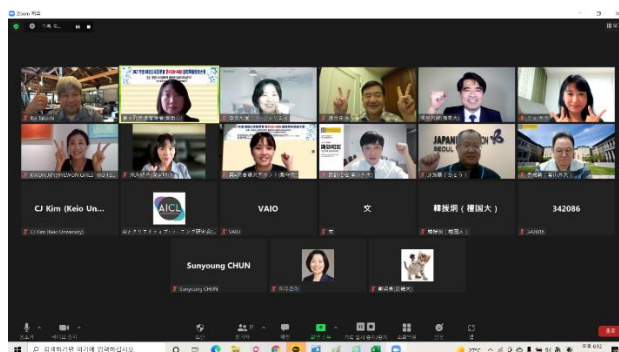
討論：辛銀眞(仁川大)

3. 検校裕朗(極東大)「韓国における「AI とクリエイティブ・ラーニング研究会」の創立とその意義」

討論：郭銀心(京畿大)

4. 趙思羅(全州雨林中)「中学校でのエデュテックの活用事例—クラスカードとパドレット及び様々なクイズ形式の学習ツールについて—」

討論：權智仁(蕙園女高)



<第2回 研究会 共同企画セッション>

2022年3月19日(土) 韓国日本語学会 第45回 国際学術大会 企画発表3・4

場所：徳成女子大学校 (ZOOM を利用したオンライン学術大会)

<企画発表3>落合由治(淡江大、AI-CL 顧問)「AI とテキストマイニング」

司会：朴江訓(全州大) 討論：曾秋桂(淡江大) 尹楨勛(釜山外大)

<企画発表4>検校裕朗(極東大、AI-CL 会長)「AI と外国語クリエイティブ・ラーニング」

司会：飯干和也(祥明大) 討論：李偉煌(静宜大) 李敬淑(亜洲大)

<第3回 研究会 (国際学術講演会および学術会議)>

2022年3月26日(土)

*場所：オンライン学術大会

<開会式> 司会：李朱利愛（梨花女大）

開会の辞：検校裕朗（極東大/ AI とクリエイティブ・ラーニング研究会 会長）

祝辞：加藤 剛（国際交流基金ソウル日本文化センター 所長）

鄭 炳浩（韓国日本学会 会長）

張 根壽（韓国日語教育学会 会長）

*MOU 調印式（淡江大学 村上春樹研究センター）

<基調講演> 曾秋桂（台湾日語教育学会前理事長・淡江大学 村上春樹研究センター長）

「世界をジブンゴト化する SDGs と AI 技術を融合した日本語翻訳授業」

司会： 諏訪昭宏（釜山外大）

<主題講演> 木村紀彦（慶応大 SFC 研究所・文教大学）

「演技・役づくりによる創造的感情教育の可能性」

<主題発表> 検校裕朗・金子るり子（極東大）

「メディア・リテラシーと外国語クリエイティブ・ラーニング」

<学術発表>

1. 朴江訓（全州大）「日本語教育と AI との学際融合のケーススタディー」大学の場合を中心にー」

司会：三國喜保子（釜山外大） 討論：尹榮珉（延世大）

2. 尹楨勛（釜山外大）「ICT 融・複合の日本語 m-Learning 教材に関する研究ーAI アプリを中心としてー」

司会：金玄珠（ハンバツ大） 討論：飯干和也（祥明大）

3. 李敬淑（亜洲大）「AI テキストマイニングツールを活用した日本語教育の可能性」

司会：辛銀真（仁川大） 討論者：孫榮奭（済州大）

<閉会式>

挨拶：落合由治（淡江大/ AI とクリエイティブ・ラーニング研究会 顧問）

開会の辞：検校裕朗（極東大/ AI とクリエイティブ・ラーニング研究会 会長）

オンライン管理者：諏訪昭宏（釜山外大）・三國喜保子（釜山外大）



編集委員会

【日本語学研究 第72輯（2022年 6月20日 発行）】

第1次 編集委員会（オンライン）

- 日時: 2022. 4. 10（日）
- 場所: オンライン/Zoom会議
- 議論内容:

- (1) 72輯（6月20日発行）投稿論文審査委員選定
- (2) 72輯 編集委員会の日程及び今後の計画（案）確認
- (3) 日本語学研究 第73輯 論文投稿のご案内（投稿締切日 2022年6月30日、発行日9月20日）



第2次 編集委員会（オンライン）

- 日時: 2022. 4. 27（水）
- 場所: オンライン/Zoom会議
- 議論内容:

- (1) 72輯 審査現況確認
- (2) 今後の日程
- (3) 日本語学研究 第73輯 論文投稿のご案内（投稿締切日 2022年 6月 30日, 発行日 9月 20日）

第3次 編集委員会（オンライン）

- 日時: 2022. 5. 3（火）
- 場所: オンライン/Zoom会議
- 議論内容:

- (1) 72 輯に投稿された12編に対する審査結果を検討した結果及び掲載
- (2) 投稿論文に対する論文類似度検査結果確認
- (3) 論文投稿要領及び審査項目の見直し
- (4) 今後の日程確認
- (5) 日本語学研究 第73輯 論文投稿のご案内（投稿締切日 2022年6月30日、発行日9月20日）



第4次 編集委員会

- 日時: 2022. 5. 25（水）
 - 議論内容:
- (1) 第72輯 投稿者修正内容確認及び韓国文化社送付
 - (2) 英文要旨監修依頼

第5次 編集委員会

● 日時: 2022. 6. 9 (木)

● 議論内容:

- (1) 第72輯 1次 刊行作業経過確認
- (2) 第72輯 1次 刊行作業及び校正作業

第6次 編集委員会

● 日時: 2022. 6. 16 (木)

● 議論内容:

- (1) 第72輯 最終校正作業
- (2) 第72輯 印刷依頼
- (3) 編集委員会の今後の日程点検

『日本語学研究』 第72輯発行 (2022. 6. 20. 月)

【日本語学研究 第73輯 (2022年 9月 20日発行)】

第1次 編集委員会(オンライン)

● 日時: 2022. 7. 12(火)

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

- (1) 73輯 (9月20日発行) 投稿論文審査委員選定
- (2) 73輯 編集委員会の日程及び今後の計画 (案) 確認
- (3) 日本語学研究 第74輯 論文投稿のご案内 (投稿締切日 2022年9月30日、発刊日12月20日)



第2次 編集委員会 (オンライン)

● 日時: 2022. 7. 28 (木)

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

- (1) 73輯 審査現況確認
- (2) 今後の日程確認

『日本語学研究』 論文投稿案内

『日本語学研究』 投稿規定

■ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

『日本語学研究』 投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600語程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例: 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003) 「한일어 조사대조」 『일본어학연구』 6 한국일본어학회 pp.1-5

_____ (2004) 「일본어 대우표현의 특징」 『일본어학연구』 10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969) 「すがたともくろみ」 『日本語動詞のアスペクト』 麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に<図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限: 学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限: 論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限: 掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文: 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号: 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

[審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上 20, ヘッダー 10, 下 10, フッター 0, 左 15, 右 15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 論文作成例示を参考にすること。

韓国語でお困りの海外外国人研究者のための
365 One Stop 論文投稿システム

◎「365 One Stop 論文投稿システム」とは、

韓国語でお困りの海外外国人研究者のみなさまが円滑に論文投稿できるよう、サポートするために考えられた論文投稿システムです。

これまで海外から当学会の学術誌『日本語学研究』に投稿するには、韓国の研究財団が指定する論文投稿システム(JAMS)を通さなければなりませんでしたが、JAMSは韓国語と英語にのみ対応しており、韓国語の分からない海外外国人研究者が韓国語や英語で会員登録などの複雑な手続きを進めていくのは困難な状況にあります。

当学会では、このような現状を踏まえて、担当者とのメールを通して円滑に論文投稿できるよう、「海外外国人研究者のための365ワンストップ論文投稿システム」を準備いたしました。

論文投稿をお考えの海外外国人研究者の方は以下のメールアドレスまでお問い合わせください。(韓国語にお困りでない研究者の方は「365 One Stop 論文投稿システム」をご使用いただけません。ご了承のほどお願いいたします。)

論文作成例や論文投稿に関する手続きなどのご案内をいたします。論文投稿時には英語及び韓国語での要旨が必要となりますが、日本語で要旨を作成していただければ、当学会で韓国語に翻訳いたします。

その他、ご不明な点やご質問などいつでも承ります。

海外外国人研究者のみなさまのご投稿をお待ちしております。

担当者：國生和美(編集委員)

メールアドレス：jlak365onestop@gmail.com

韓国日本語学会第12代編集委員会一同

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報

2021年度 韓国日本語学会 第43回・44回 国際学術発表大会
 主題: 문법과 사회언어학의 융합에서 일본어교육실천까지
 文法と社会言語学の融合から日本語教育の実践まで
 ・日時: 2021年9月11日(土) ・場所: 漢陽Cyber大學校 力量教育ワークショップ講義室2 (ZOOMを利用したオンライン学術大会)
 ・主催: 韓国日本語学会, 漢陽Cyber大學校, 韓国OPF研究会, 日韓コミュニケーション研究会, 韓国韓日日本語教育研究会, AIとクリエイティブラーニング研究会
 ・主管: 韓国日本語学会
 ・後援: 漢陽Cyber大學校 産學協力團, JAPAN FOUNDATION SEOUL, (株)時事BOOKS

Main Information

학술지 연구물리규정 학술대회 편집위원회 학술상 뉴스레터 글로벌 네트워크 연계협력연구회 자료실 자유게시판

공지사항

『日本語学研究』 第74号(9월 30일) 논문투고 안내	2021.08.22
【프로그램公開&申し込み開始】 第31回小田記念日本語学・国文学年次大会	2021.06.09
제45회 국제학술대회 심포지엄서 인사 / 第45回國際學術大會 領사의견서	2022.03.21
<한국일본어학회> 2021년도 한국연구재단 주관 학술지 평가 결과 "등재학술지 유지" 선정	2021.11.07

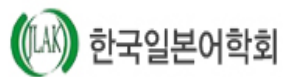
**韓国語でお困りの
海外外国人研究者のための
365 One Stop 論文投稿
システム**

**KJC
Journal Central
日本語学研究
(KJC)**

学会ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr/>

The Japanese Language Association of Korea



ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒(01369) 서울특별시 도봉구 삼양로 144 길 33 덕성여자대학교 인문사회관 424 호 노주현 교수 연구실 (연구편집 사무국장 : 이소라) 010-8901-2603 (학술사업기획 사무국장 : 호규진) 010-3464-1660 (교육홍보 사무국장 : 이토 타카오) 010-2656-2098	〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社会館 424 号 盧姪鉉教授研究室 (研究編集事務局長 : 李炤羅) ☎ 010-8901-2603 (學術事業企劃事務局長 : 尾圭珍) ☎ 010-3464-1660 (教育広報事務局長 : 伊藤貴雄) ☎ 010-2656-2098
E-mail : jlak123@hanmail.net Homepage : http://www.jlak.or.kr	